



なかむら よしろう

第18回 2002年度 高柳記念賞

中村 好郎 氏

「わが国における放送技術発展への貢献」

中村好郎氏は、長年にわたりわが国の放送技術の向上、発展に多大な貢献をした。昭和30年代、テレビが急成長を遂げるなか、モノクロからカラーへの転換、また、機器の高性能化・低価格化等の開発、さらにはハイビジョン機器の開発と番組制作を推進した。さらに世界に先駆けて衛星放送の実用化を推進し、デジタル化・ハイビジョン化が進んだわが国放送技術の礎を築いた。

その業績の要約は下記のとおりである。

1) 放送カラー化

モノクロテレビジョンのカラー化を推進、取り扱いが簡易で安全性に配慮したカラー現象システムを開発し、極めて短期間に地方放送局を含めニュースの全面カラー化を実現した。これにより国内の放送カラー化が大きく推進された。

2) ニュース送出システムの開発

技術者以外でも運用可能な番組送出装置開発を行い、わが国初のニュース専用スタジオを完成させた。また、ニュース制作現場の作業を詳細に分析し、省力化した運用性の高い自動制御ニュース送出システムを完成させた。この新システムの開発は人的・時間的に効率の良い業務運営に資するとともに、報道番組の制作に新しい道を拓いた。さらに、昭和48年、現在の放送センターへの移転にあたって大規模な設備、機能の移設を円滑に遂行し、設備の充実・機能の向上を図り、放送センターの心臓部であるニュースセンターを完成させた。

3) 小型番組制作機器の開発

映像技術が、フィルムからビデオへと急速に転換した昭和50年代、ビデオへの移行を強力に進め、カメラ、VTR等の小型化、高性能化、低価格化等の開発を行い、映像革命と言えるビデオ時代を切り開いた。また、衛星放送の中継車、高感度カメラ、ヘリコプター用機材の開発等により、緊急報道・取材体制を調え、技術面から放送番組の質の向上を図った。

4) 衛星放送の実用化

昭和61年理事就任後は、衛星による24時間放送開始を指揮し、衛星調達や地上設備の開発、専門技術者育成など、多岐にわたる基盤整備を図り、平成元年に本放送を開始するなど衛

星放送の実用化を世界に先駆けて実現させ、今日の衛星放送時代の基盤確立に大きく貢献した。

5) ハイビジョンの推進

ハイビジョンの推進においては、ハイビジョン機器の開発とともに、番組の開発、人材育成にも指導的役割を果たし、昭和 59 年ロサンゼルス五輪のハイビジョン取材、昭和 63 年ソウル五輪の中継放送などを指揮し、平成元年のハイビジョン定時実験放送開始に結びつけた。また、ハイビジョンと標準テレビとの一体化制作、ハイビジョン伝送方式 MUSE の LSI 開発による受信機の低価格化推進など、ハイビジョンの普及・発展に大きな貢献をした。

経歴 1930 年 6 月 6 日生

学歴 1955 年 3 月 早稲田大学 大学院 工学研究科 修了

職歴 1955 年 4 月 日本放送協会 入局

1986 年 9 月 理事 技術本部長

1988 年 9 月 専務理事 技師長

1991 年 10 月 副会長

1995 年 10 月 NHK 厚生文化事業団 理事長

1999 年 6 月 同上 退任

受賞歴 テレビジョン学会 丹羽高柳賞功績賞(1992)

藍綬褒賞(1996)

前島賞(1998)

ハイビジョンアワード郵政大臣賞(2000) 他多数